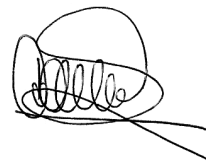
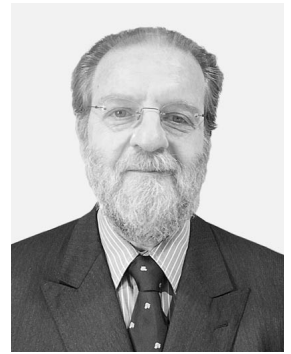


アルゼンチン： 日本企業にとっての戦略的パートナー

駐日アルゼンチン共和国大使館特命全権大使

ダニエル・ポルスキ

Mr. Daniel POLSKI



アルゼンチンは南米第二の経済大国です。2003年から2008年にかけてアルゼンチンは、経済成長率が世界で最も高い国のひとつであり、他のラテンアメリカ諸国やアジアの発展途上国を上回る年平均8.5%の成長をみせました。

マクロ経済のファンダメンタルズは堅調で、GDP成長率は2009年の世界経済危機のさなかにも約1%増となりました。さらに、今年度のGDP成長率は5%を上回ると予測されています。これは、財政的な支払い能力、対外黒字、財政黒字、国内市場の強化、外部資金への依存の低減、輸出市場の多様化や外貨準備高の継続的な増加などさまざまな要因により実現したものです。

こうした状況は、海外企業による直接投資の増加にも貢献しました。2004年から2008年の海外企業による対アルゼンチン直接投資の年間成長率は43%と、世界平均のみならず新興国平均（28%）をも大きく上回る結果となりました。投資を最も多く受けたセクターは、工業、天然資源、およびソフトウェア、バイオテクノロジーなどの新技術セクターです。

G20のメンバーでもあるアルゼンチンは、地域的・国際的に融和し、多角化された経済の保有者です。アルゼンチンは戦略商品の世界的リーダーであり、世界第二の有機農作物生産国、世界第五位のバイオディーゼル生産国、そしてバイオテクノロジーの地域的リーダーとして位置づけられています。わが国は農産物加工業や再生可能エネルギーから、デザイン、ファッションなどのクリエイティブ産業、または先端技術サービスなど、多様な分野におけるビジネス機会を広範に提供することができます。

同様に、アルゼンチンは高度な能力を備えた人材を擁することでも世界的に認められています。“The Economist Intelligence Unit”^注によるイノベーション指標では、アルゼンチンは南米諸国中最もイノベティブな国と評価を得ています。

メルコスール（南米共同市場）の一員であるアルゼンチンは、人口2億4100万、GDP1.9兆ドル超規模の巨大市場に直接アクセスが可能です。アルゼンチンの貿易は多様化しており、商業的なパートナーとしてはアジア諸国、特に中国との取引が存在感を増しています。

アルゼンチンと日本の経済関係、そして商業関係の構築・深化には、戦略的な利点が備わっています。日本市場以外の他アジア諸国に対するアルゼンチン製品の取引が拡大していることは多くの日本大手企業が理解されていることでしょう。しかし、相互経済の補足性に鑑みれば、現在の取引と投資のレベルはさらに深化できる高い可能性を秘めています。特に、食の安心と安全が重視される食品業界では、アルゼンチンは日本の重要なパートナーとなることが可能です。

戦略的な視点からわれわれ2カ国間のさらなる関係強化を図ることで、拡大し続ける世界市場の需要増とともに挑むことができるでしょう。

注：EIU（エコノミスト・インテリジェンス・ユニット）＝英国の国際経済紙「The Economist」の調査・コンサルティング部門。